

### 香川県で条例案

さて、今週はみなさんが大好きなゲームの話です。「おっ、どんなゲームの紹介かな?」そんなふうに思った人にはちよっぴりがっかりさせるかもしれません。ゲームが好きなお人ほど読んでほしい話です。

今、香川県でつくろうとしている条例が、全国で議論の的になっています。それは、子どもたちが、ゲームをやめたくてもやめられなくなる病気「ゲーム依存症」になるのを防ぐための条例です。

議論を呼んでいるのは、条例案の「ゲームは1日あたり60分までを基準にする」という部分。「ゲームをやりたいために、ルールがある方がいい」と賛成する人がいる一方、「どのくらいゲームをするかについて他人が口出しすべきではない」と反対する人もいます。

みなさんの家庭では、ゲームをするルールはありますか? 今回のルールづくり、あなたはこう考えますか?

## のめりこみ

スポーツの精神を競う団体では、昨年のスポーツが初めて取り入れられた

## 要注意

### ゲーム 家族と話し合おう



イラスト・たまいはるこ

### 条例 きっかけになる ■ 何時間しようとする自由

今回の条例の賛成・反対意見にはこんなものがあります。

**<賛成>**  
ゲーム依存症は危険なのに、無制限にゲームをさせている家庭が多い。条例ができれば、「ゲーム依存症にならないためにはどうしたらいいか」をそれぞれの家で話し合うきっかけになる。

**<反対>**  
本来、ゲームを何時間しようとするのは個人の自由。今はゲームの魅力をスポーツもさかん。経済を元気にする手段としても注目を浴びている流れに逆行している。  
★読者からのおたよりにも賛成・反対意見がありました。16ページで紹介しています!



### 居場所 締め出さないで

「ゲームの時間の長さより、学校や家に居場所がないのが問題では」と話すのは、小幡和輝さん(25)「写真」。子どもに対してゲームの攻略法を教える「ゲームトレ」という事業を、ズなどのゲームを1日10時間プレイしていました。



「スポーツや勉強はダメでも、ゲームは得意だった。でもゲームができてモバカにされるだけ」と小幡さん。そんな自分と似た子どもたちの居場所を作ろうと、この事業を始めた。「ゲームに依存性はあると思います。しかし時間制限などでゲームに居場所を求める人を締め出してほしくない」と小幡さんは考えています。

### ゲームとの関わりは家庭によって違う

| 子どもの学年                        | ゲームとの関わり                                                                       |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 西山さん宅<br>小4男子<br>小1女子         | 「連続30分まで」というルール。習い事が忙しくあまりゲームはしない。                                             |
| 西戸さん宅<br>中2女子<br>小6女子<br>小2男子 | 平日は1日1時間まで。小2男子はゲームを出っぱなしにして3回使用禁止になった。ルールは子どもと話し合って決めた。                       |
| Sさん宅<br>中1男子                  | 小4から不登校。ゲームの制限などで親子関係が悪化。今は親も「ゲームも彼の居場所」と考えて制限していない。最近、自分から「夜10時以降はしない」と言い始めた。 |

### へんしゅう室から

「スーパーでお総菜を作るアルバイトをした時、作業の速さを競うゲームと同じだと思ったんです。僕、めっちゃ速かったですよ」。ゲームを運営する小幡さんが笑いました。

私は小学生の時、「ゲーム



### 「週に30分」短かったかも

は週に30分」と親から決められていました。短すぎて結局、ゲーム自体やらなくなってしまいました。依存症は確かに怖いですが、ゲームで得られるものもあったはず。つきあひ方の問題だな、と取材をして改めて思いました。(山口健彦)

### 何度も見直す

子どもが納得しないと、守ることが難しいからです。ルールは一度決めて終わりではなく、守れなかったときにどう変えればいいのか話し合ってください。何度も見直すことが大事だと言えます。